

# 四半期報告書

(第12期第3四半期)

自 平成22年7月1日

至 平成22年9月30日

**アンジェス MG株式会社**

大阪府茨木市彩都あさぎ七丁目7番15号

彩都バイオインキュベータ4階

# 目 次

頁

表 紙

## 第一部 企業情報

### 第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移 .....	2
2 事業の内容 .....	3
3 関係会社の状況 .....	3
4 従業員の状況 .....	3

### 第2 事業の状況

1 生産、受注及び販売の状況 .....	4
2 事業等のリスク .....	5
3 経営上の重要な契約等 .....	5
4 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 .....	6

### 第3 設備の状況 .....

10

### 第4 提出会社の状況

#### 1 株式等の状況

(1) 株式の総数等 .....	11
(2) 新株予約権等の状況 .....	11
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等 .....	20
(4) ライツプランの内容 .....	20
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移 .....	20
(6) 大株主の状況 .....	20
(7) 議決権の状況 .....	21

#### 2 株価の推移 .....

21

#### 3 役員の状況 .....

21

### 第5 経理の状況 .....

22

#### 1 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表 .....	23
(2) 四半期連結損益計算書 .....	25
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	27

#### 2 その他 .....

36

## 第二部 提出会社の保証会社等の情報 .....

37

[四半期レビュー報告書]

## 【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成22年11月1日

【四半期会計期間】 第12期第3四半期  
(自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)

【会社名】 アンジェス MG株式会社

【英訳名】 AnGes MG, Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 山田 英

【本店の所在の場所】 大阪府茨木市彩都あさぎ七丁目7番15号  
彩都バイオインキュベータ4階

【電話番号】 072-643-3590

【事務連絡者氏名】 経理部長 西島 雄一

【最寄りの連絡場所】 東京都港区芝五丁目20番14号 三田鈴木ビル5階

【電話番号】 03-5730-2753

【事務連絡者氏名】 経理部長 西島 雄一

【縦覧に供する場所】 アンジェス MG株式会社 東京支社  
(東京都港区芝五丁目20番14号 三田鈴木ビル5階)  
株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

連結経営指標等

回次		第11期 第3四半期連結 累計期間	第12期 第3四半期連結 累計期間	第11期 第3四半期連結 会計期間	第12期 第3四半期連結 会計期間	第11期
会計期間		自 平成21年 1月1日 至 平成21年 9月30日	自 平成22年 1月1日 至 平成22年 9月30日	自 平成21年 7月1日 至 平成21年 9月30日	自 平成22年 7月1日 至 平成22年 9月30日	自 平成21年 1月1日 至 平成21年 12月31日
事業収益	(千円)	489,651	187,391	116,050	71,887	585,695
経常損失	(千円)	2,254,801	1,319,139	656,202	457,407	2,783,518
四半期(当期)純損失	(千円)	2,390,445	1,342,506	662,957	466,770	2,921,390
純資産額	(千円)	—	—	7,195,004	4,943,447	6,512,927
総資産額	(千円)	—	—	7,896,187	5,610,170	7,162,146
1株当たり純資産額	(円)	—	—	60,347円84銭	40,742円66銭	54,345円29銭
1株当たり四半期 (当期)純損失	(円)	20,300円85銭	11,378円4銭	5,630円17銭	3,955円98銭	24,804円64銭
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益	(円)	—	—	—	—	—
自己資本比率	(%)	—	—	90.0	85.7	89.5
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	△1,849,040	△1,394,825	—	—	△2,225,095
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	△16,480	1,436,616	—	—	△530,513
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	△201	—	—	—	11,727
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	—	—	3,925,270	3,076,922	3,049,098
従業員数	(名)	—	—	81	78	80

(注) 1 事業収益には消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、ストック・オプション制度導入に伴う新株引受権及び新株予約権残高がありますが、1株当たり四半期(当期)純損失が計上されているため記載しておりません。

## 2【事業の内容】

当第3四半期連結会計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 3【関係会社の状況】

当第3四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

## 4【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成22年9月30日現在

従業員数（名）	78(8)
---------	-------

(注) 従業員数は、就業人員であり、臨時雇用者数は、当第3四半期連結会計期間の平均人員を（ ）に外数に記載しております。

### (2) 提出会社の状況

平成22年9月30日現在

従業員数（名）	63(4)
---------	-------

(注) 従業員数は、当社から他社への出向者を除く就業人員であり、臨時雇用者数は、当第3四半期会計期間の平均人員を（ ）に外数に記載しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【生産、受注及び販売の状況】

#### (1) 生産実績

当第3四半期連結会計期間における生産実績を事業別に示すと、次のとおりであります。

事業別	生産高 (千円)	前年同四半期比 (%)
医薬品	68,565	△38.0
その他	1,522	111.1
合計	70,088	△37.1

- (注) 1 金額は、販売価格によっております。  
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

#### (2) 受注実績

当第3四半期連結会計期間における受注実績を事業別に示すと、次のとおりであります。

事業別	受注高 (千円)	前年同四半期比 (%)	受注残高 (千円)	前年同四半期比 (%)
医薬品	53,658	+33.3	—	△100.0
その他	—	—	—	—
合計	53,658	+33.3	—	△100.0

- (注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

#### (3) 販売実績

当第3四半期連結会計期間における販売実績を事業別に示すと、次のとおりであります。

事業別	販売高 (千円)	前年同四半期比 (%)
医薬品	70,364	△39.0
その他	1,522	111.1
合計	71,887	△38.1

- (注) 1 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	前第3四半期連結会計期間		当第3四半期連結会計期間	
	販売高 (千円)	割合 (%)	販売高 (千円)	割合 (%)
アルフレッサ株式会社	11,860	10.2	27,990	38.9
成和産業株式会社	25,618	22.1	25,618	35.6
第一三共株式会社	70,475	60.7	16,706	23.2

- 2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

## 2【事業等のリスク】

当第3四半期連結会計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等はありません。なお、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて、重要な変更は以下のとおりです。

### (1) 遺伝子治療の現状について

遺伝子治療とは、遺伝子を用いて病気を治療することです。世界初の遺伝子治療は、1990年に米国で実施され、アデノシン・デアミナーゼ（ADA）欠損症という先天的に免疫が正常に働かない遺伝性疾患が対象となりました。その後は、ADA欠損症などの遺伝性疾患だけでなく、有効な治療法がない癌や後天性免疫不全症候群などに対しても、遺伝子治療が実施されてきました。国内でも1995年に北海道大学においてADA欠損症を対象とした初めての遺伝子治療が行われ、その後、1998年に東京大学医科学研究所において腎臓癌、1999年に岡山大学において肺癌を対象とした遺伝子治療が実施されてきました。このように遺伝子治療としては、19年間に亘り数多くの臨床試験が行われています。

一方で、遺伝子治療は、新規性が高い治療法であることから、現段階では未知のリスクが否定できません。リスクとベネフィットの関係から、その対象疾患は、重篤な遺伝性疾患、癌、後天性免疫不全症候群その他の生命を脅かす疾患又は身体の機能を著しく損なう疾患に限られております。

遺伝子治療が有効と考えられる対象疾患としては、遺伝子の変異が原因の遺伝性疾患があります。遺伝性疾患は、遺伝子治療により正常な遺伝子が補充されるため、治療効果が期待しやすいと考えられる疾患です。

次に、遺伝子治療の対象疾患としては癌領域が期待されております。癌領域は、従来の治療法では十分な治療効果が得られない場合が多く、新しい治療法である遺伝子治療に期待が高まっております。癌の遺伝子治療には、癌抑制遺伝子を投与する方法や、患者の免疫力を高める遺伝子を投与する方法などが研究されております。

最近では、血管疾患や心臓疾患、関節リウマチ、神経変性疾患なども遺伝子治療の対象として臨床での研究が進められております。特に、当社が開発を進めているHGF遺伝子治療の対象である足の血管が詰まる閉塞性動脈硬化症や、心筋に酸素や栄養を送る冠動脈の硬化によって起こる虚血性心疾患は、世界の患者数が大変多い疾患領域でもあり、事業性の面からも注目されております。

遺伝子治療薬については、米国を中心に多くの臨床試験が実施されているものの、世界の中で、承認及び上市され、販売された製品がある地域は中国のみであり、日本国内、米国及び欧州の先進国においては上市された製品はありません。当社は、国内において、虚血性疾患治療剤「コラテジェン」（HGF遺伝子治療薬）の製造販売承認を申請していましたが、独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）との協議の結果、国内第Ⅲ相試験において有効性の確認は出来たものの、当社の求める適応の承認取得には更なる臨床データの集積が必要との結論に至り、2010年9月17日に承認申請を取り下げ、必要な追加試験の実施後に再申請することを決定いたしました。今後は、追加データ取得の為に国際共同第Ⅲ相試験への参加することで、日本において最短かつ確実に承認を取得することを目指します。

### (2) 薬事法による規制について

薬事法は、医薬品・医療機器等の品質、有効性、安全性確保の観点から、企業が行う製造・販売等に関して必要な規制を行う法律です。当社グループは、現在、遺伝子治療薬等を中心とした医薬品の研究開発を行っておりますが、薬事法の規制を受けております。

当社グループは、国内において、虚血性疾患治療剤「コラテジェン」を承認申請していましたが、追加試験実施に伴い一旦承認申請を取り下げておりますが、追加試験実施後は再申請する予定です。NF- $\kappa$ Bデコイオリゴについても、臨床試験等の研究開発を進めております。米国においてもコラテジェンの臨床試験を進めております。当社は、開発の過程で得られた様々な試験の結果を活用し、薬事法に基づいて、厚生労働大臣に対して医薬品の製造販売承認申請を行い、承認を取得することを目指しております。医薬品は、創薬から製造販売承認申請を経て、製造販売承認を取得するに至るまでには、膨大な開発コストと長い年月を必要とします。承認取得の可能性は、申請後の承認審査に耐え得るだけの品質、有効性及び安全性に関する十分な試験の結果が得られ、医薬品としての有用性を示すことができるか否かに依存しております。これは国内に限らず、米国の場合でも同様なことが言えます。このため、試験データの不足などが原因で、承認が計画どおりに取得できず、ひいては上市が困難といった事態の発生も想定されます。このような場合にあっては、当社グループの事業戦略や経営成績に重大な影響を及ぼす可能性があります。

## 3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約は行われておりません。

## 4【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

### (1) 経営成績の分析

当第3四半期連結会計期間において、当社グループ（当社及び連結子会社3社）では、遺伝子医薬品の研究開発を着実に進めるとともに、新たな提携候補先との契約交渉を行うなど、事業の拡大を図ってきました。当第3四半期連結会計期間の連結業績は、以下の通りです。

当第3四半期連結会計期間の事業収益は71百万円（前年同期比44百万円（△38.1%）の減収）となりました。

当社グループでは、平成20年4月より販売を開始しましたムコ多糖症VI型治療薬「ナグラザイム」の販売収入につき、医薬品事業の事業収益に計上しております。

医薬品事業以外のその他の事業については、HVJ-E非ウイルス性ベクター遺伝子機能解析用キットや、NF-κBデコイオリゴを含むデコイ型核酸医薬に関して、提携企業より、これら研究用試薬の販売額の一定率をロイヤリティとして受け入れ、事業収益に計上しております。

当第3四半期連結会計期間につきましては、ムコ多糖症VI型治療薬「ナグラザイム」の商品売上高が増加したものの、開発協力金収入の減少や、連結子会社ジェノメディア株式会社におけるライセンス契約関連収入が減少しており、事業収益全体としては前年同期比44百万円の減収となっております。

当第3四半期連結会計期間における事業費用は、5億35百万円（前年同期比2億32百万円（△30.2%）の減少）となりました。内訳は、売上原価が24百万円（前年同期比6百万円（+38.1%）の増加）、研究開発費3億22百万円（前年同期2億53百万円（△44.0%）の減少）、販売費及び一般管理費は1億88百万円（前年同期比15百万円（+8.7%）の増加）です。事業費用減少の主な要因は、Allovetin-7の開発に関する米国バイカル社への開発協力金負担の減少によるものです。なお、研究開発の詳細は後述の「(5)研究開発活動」をご覧ください。

以上の結果、当第3四半期連結会計期間の営業損失は4億63百万円（前年同期の営業損失は6億51百万円）となり、前年同期より1億88百万円の損失減少となりました。

当第3四半期連結会計期間の経常損失は4億57百万円（前年同期の経常損失は6億56百万円）となり、1億98百万円の損失減少となりました。これは、営業損失の減少に加えて、主に為替の影響によるものです。

当第3四半期連結会計期間の四半期純損失は、4億66百万円（前年同期の四半期純損失は6億62百万円）となり、前年同期より1億96百万円の損失減少となりました。当第3四半期連結会計期間において、特許権の除却損を7百万円計上しております。

所在地別セグメントの業績は、日本は、事業収益71百万円（前年同期比44百万円の減収）、営業損失4億66百万円（前年同期比1億93百万円の増益）となりました。北米においては、事業収益36百万円（前年同期比18百万円の減収）、営業利益2百万円（前年同期比0百万円の増益）となりました。欧州では、事業収益1百万円（前年同期比0百万円の減収）、営業利益0百万円（前年同期比0百万円の減収）となりました。なお、日本の事業収益は外部顧客に対するものであり、北米及び欧州の事業収益はセグメント間の事業収益であります。この詳細は本報告書「第一部 企業情報 第5 経理の状況 1 (1)連結財務諸表 注記事項（セグメント情報）所在地別セグメント情報」をご覧ください。

### (2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の総資産は56億10百万円（前連結会計年度末比15億51百万円の減少）となりました。流動資産は、コラテジェンの仕入により原材料が1億34百万円増加しましたが、主に当期事業費用への充当により現金及び預金が9億72百万円減少し、満期償還により有価証券が5億61百万円減少しました。その結果、流動資産は46億14百万円（前連結会計年度末比13億21百万円の減少）となりました。一方、固定資産は、9億95百万円（前連結会計年度末比2億30百万円の減少）となりました。主にバイカルインク株式の時価評価の下落に伴い、投資有価証券が1億66百万円減少しております。

当第3四半期連結会計期間末の負債は6億66百万円（前連結会計年度末比17百万円の増加）となりました。内訳は流動負債6億66百万円（前連結会計年度末比17百万円の増加）となっております。

純資産は49億43百万円（前連結会計年度末比15億69百万円の減少）となりました。これは、四半期純損失の発生に伴い利益剰余金が13億42百万円減少していることが主な要因です。

### (3) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、第2四半期連結会計期間末に比べ6億34百万円減少し、30億76百万円となりました。当第3四半期連結会計期間のキャッシュ・フローの状況は次のとおりです。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果使用した資金は、5億20百万円（前年同期は7億39百万円の資金の使用）となり、前年同期より使用した資金は2億18百万円減少しております。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結使用した資金は、1億7百万円(前年同期は7億88百万円の資金の使用)となりました。前年同期と比較して、有価証券の取得による支出が4億99百万円減少し、有価証券の償還による収入が2億円増加したため、前年同期より6億81百万円の支出減少となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金はありません(前年同期は一百万円の資金の使用)。

#### (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結会計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更、及び新たに生じた課題はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等(会社法施行規則第118条3号に掲げる事項)は次のとおりです。

##### ① 基本方針

当社は、財務及び事業の方針の決定を支配する者は、当社の企業使命及び企業価値を理解し、当社の企業価値を中長期的に向上させる者でなければならないと考えております。

また、当社は、公開会社である以上、当社株式の取引は、株主、投資家の自由意思に委ねるのが原則であり、大規模買付行為がなされた場合においても、これに応じて当社株式の売却を行うか否かは、最終的には当社株主の皆様が判断に委ねられるべきものであると考えております。

しかしながら、大規模買付の手法によっては、株主の皆様が当該買付に応じるか否かについて検討するための十分な情報、機会を与えられることのないまま、やむなく買付に応じるという判断を行わざるを得ない状況が生じる可能性が否定できません。とりわけ当社は、難病の患者様に対する新薬開発を企業使命としており、患者様の生命や健康に直結する事業を進めていること、世界の先進国でもまだ商品化されていない遺伝子治療薬の研究開発を事業領域としていることから、その経営においては高い倫理観と遺伝子治療薬開発をはじめとするバイオテクノロジーに関する専門的な知識・ノウハウ等が要求されております。

従いまして、当社は、大規模買付行為がなされる場合に、株主の皆様へ提供される情報、検討機会を確保するための相当かつ適切な対応をとることが必要であると考えております。

##### ② 基本方針実現に資する具体的な取り組み

###### (a) 基本方針の実現に資する特別な取り組み

当社は、当社の企業価値を維持、向上させ、投資家の皆様へ長期的に当社に投資を継続していただくために、中期経営計画に基づき、現状の各プロジェクトの開発を着実に進め、事業化を進めるとともに、開発ポートフォリオの充実のため、他社との提携も含めた新規プロジェクトの立ち上げを検討し、進めてまいります。

###### (b) 基本方針に照らして不適切な者による支配を防止するための取り組み

当社は、平成19年3月30日開催の当社定時株主総会にてその導入についてご承認いただきました当社株式の大規模な買付行為に関する対応方針(以下、「本プラン」)の継続について平成22年3月30日開催の当社定時株主総会にてご承認を得ております。

本プランは、大規模買付者が従うべき大規模買付ルールと、大規模買付行為に対して当社が取りうる対応方針から構成されております。大規模買付ルールの内容は、特定株主グループの議決権割合が20%以上となる当社株券等の買付行為(以下、かかる買付行為を「大規模買付行為」、かかる買付行為を行う者を「大規模買付者」)を行うおうとする者に対し、(a)大規模買付の目的、方法及び内容、大規模買付後の事業計画等についての情報提供と、(b)当社取締役会による適切な評価期間(90日)の確保を要請するものです。当社取締役会は、評価期間中、外部専門家等の助言を受けながら、提供された情報を十分に評価・検討し、当社取締役会としての意見を慎重にとりまとめ、適切と判断する時点で公表します。また、必要に応じ、大規模買付者との間で大規模買付行為に関する条件改善について交渉し、当社取締役会として当社株主の皆様に対し代替案を提示することもあります。

大規模買付者が大規模買付ルールを遵守しなかった場合には、具体的な買付方法の如何にかかわらず、当社取締役会は、当社及び当社株主全体の利益を守ることを目的として、対抗措置(新株予約権の無償割当て)を決議することができるものとします。対抗措置の発動は、大規模買付者が大規模買付ルールを遵守しない場合に限定されるため、当社取締役会の恣意的な判断に依存するものではありません。

対抗措置としての新株予約権の無償割当ては、具体的には、一定の基準日現在の株主に対し、その所有株式1株につき1個の割合で新株予約権を割り当てるものです。新株予約権には、大規模買付者を含む特定の株主グループによる権利行使が認められないという行使条件を付し、当社が大規模買付者を含む特定の株主グループ以外の株主の皆様から当社株式と引き換えに新株予約権を取得する取得条件を付しています。

本プランの導入後であっても対抗措置が発動されない限り、株主及び投資家の皆様へ直接具体的な影響が生じることはありません。一方、対抗措置が発動された場合、大規模買付ルールを遵守しない大規模買付者においては、その持株比率が低下し、自己の持株の価値が減少する(いわゆる「希釈化」)という不利益を受けることとなります。また、この場合、新株予約権の無償割当てが実施され、当社が大規模買付者以外の株主の皆様から当社株式と

引き換えに新株予約権を取得した場合には、大規模買付者以外の株主の皆様は、新株予約権の行使なしで当社株式を受領することになります。当社取締役会が対抗措置の発動を決定した場合には、適時適切な開示を行います。

本プランの有効期間は、平成22年開催の定時株主総会にて継続のご承認をいただきましたことから、平成22年開催の定時株主総会の日から平成23年開催の定時株主総会の日までとなっております。また、本プランを継続するか否かについては、平成23年開催の定時株主総会にて審議、決定することとし、以後も同様となっております。なお、本プランの有効期間満了前であっても、当社株主総会又は当社取締役会は、本プランを廃止することができ、この場合、当該決議が行われた日をもって本プランは廃止されるものとします。また、当社取締役会は、本プランの有効期間中であっても、株主総会決議の趣旨に反しない限度で本プランを修正し、又は変更することができるものとします。当社は、本プランの変更又は廃止の決議がなされた場合には、変更の内容又は廃止について速やかに情報開示します。

なお、本プランの詳細は平成21年2月23日付で「大規模買付行為への対応方針（買収防衛策）の継続および修正に関するお知らせ」として公表されております。

### ③ 具体的な取り組みに対する取締役会の判断及びその理由

上記②(a)の取り組みは、当社の企業価値を持続的に向上させるためのものであり、また、上記②(b)の本プランは、株主全体の利益を保護するという観点から、株主の皆様を提供される情報、検討機会を十分に確保する目的とするものであり、対抗措置の発動は、大規模買付者が大規模買付ルールを遵守しない場合に限定されるため、当社取締役会の恣意的な判断に依存するものではなく、当社取締役の地位の維持を目的とするものでもないことから、上記①の基本方針に沿い、当社株主全体の利益に合致するものと考えております。

## (5) 研究開発活動

当社グループでは、以下のプロジェクトを中心に研究開発を進めました。

虚血性疾患治療剤「コラテジェン」(HGF遺伝子治療薬)については、重症虚血肢を有する閉塞性動脈硬化症及びバージャー病を適応症として、平成20年3月に国内において製造販売承認申請を行い、その後、承認審査機関である独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)との協議を重ねてまいりました。その結果、国内第Ⅲ相試験において本剤の有効性は確認できたものの、当社の求める適応の承認取得には更なる臨床データの集積が必要との結論に至ったことから、一旦承認申請を取り下げ、必要な追加試験の実施後に再申請することに決定いたしました。

現在、当社ではコラテジェンの海外での上市を目的とし、欧米において国際共同第Ⅲ相試験の準備を進めており、本試験は既に米国FDA(米国食品医薬品局)よりSPA(Special Protocol Assessment、特別プロトコル査定)を取得しております。加えて、本年9月には米国FDAからFast Track指定を取得いたしました。今後、日本からもこの国際共同第Ⅲ相試験に参加することで、日本において最短かつ確実に承認を取得することを目指します。なお、日本においては引き続き第一三共株式会社に販売権を供与しておりますが、今後の開発費については当社で負担する予定です。

これらを踏まえ、現在、国際共同第Ⅲ相臨床試験の開発を実施する為のパートナー候補との提携交渉中であり、提携が決定次第、試験を開始したいと考えております。

NF- $\kappa$ Bデコイオリゴに関してはアトピー性皮膚炎適応の共同開発パートナーを選定しておりましたが、平成22年3月29日に、グローバル開発が可能な塩野義製薬株式会社との間でNF- $\kappa$ Bデコイオリゴの外用剤全般の共同開発を前提とした正式な協議の開始に基本合意し、現在、塩野義製薬へ独占的販売権を付与する諸条件の検討を進めております。このことにより、欧米を含めた迅速なグローバル開発が可能となり、NF- $\kappa$ Bデコイオリゴの価値を最大化する事ができると考えております。また、当社はNF- $\kappa$ Bデコイオリゴの皮膚浸透性を向上するため、株式会社メドレックスが保有する新規経皮製剤技術ILTS(Ionic Liquid Transdermal System)を用いた新製剤の共同開発を進めてまいりましたが、平成22年4月9日に、メドレックスとの間で本技術の実施権取得に関する本格的な協議を開始する事に合意致しました。このILTS技術をNF- $\kappa$ Bデコイオリゴ製剤に活用することで、より広範囲の炎症性皮膚疾患への応用が期待できると考えております。

さらに、NF- $\kappa$ Bデコイオリゴの次世代型として株式会社ジーンデザイン、ホソカワミクロン株式会社及び大阪大学との間において、新規構造を有する核酸ハイブリッドデコイにより難治性炎症性疾患に対する医薬品開発を目指す産学4者共同研究開発を進めております。

また、PTAバルーンカテーテルの外表面に塗布するNF- $\kappa$ Bデコイオリゴにより、血管炎症が強力に抑制される事で血管の再狭窄を予防する新世代の医療機器の開発プロジェクトをNEDO(独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)の助成のもとで行っております。現状の末梢血管内治療法では血管の再狭窄率が高く「再狭窄予防」が期待できるPTAバルーンカテーテルが求められており、本製品の開発によりカテーテル血管拡張の再処置や外科的バイパス手術の回避が可能になり、患者QOLの向上や患者負担の軽減が期待できます。

抗菌作用を有する機能性ペプチドに関しては、平成21年4月より森下仁丹株式会社と共同で研究を実施しており、同社の傷あて材などの医療機器における強みを生かして、応用製品の共同研究を進めてまいります。

GEN0101については、子会社ジェノメディア株式会社は株式会社TSD Japanに前立腺癌分野におけるライセンス契

約を締結しており、これまでに前臨床試験データの取得をほぼ完了しております。また、平成22年5月におきなわ新産業創出研究開発支援事業（財団法人沖縄県産業振興公社）に「ニードルレス注射器を用いたパンデミックインフルエンザに対する高性能DNAワクチンの開発」が採択され、2010年9月に開設した沖縄ラボでブタインフルエンザを予防する家畜用DNAワクチンの研究開発に取り組んでおります。

転移性メラノーマ（悪性黒色腫）治療薬Allovetin-7については、提携先の米国バイカル社と米国FDAとの間でSPA合意に基づく第Ⅲ相試験として、米国、欧州を中心とした15カ国の国際共同治験を実施中です。試験は予定通り順調に進んでおり、平成22年1月に目標症例登録を終了し、2月に全症例登録を完了致しました。また、本年9月にはバイカル社が米国FDAからFast Track指定を取得いたしました。転移性メラノーマは進行が早く生存率が低い難病ですが、既存薬は治療効果が低く副作用が強いことから、より有効で安全性に優れた治療薬が求められております。Allovetin-7は、免疫の賦活化（活性化誘導）により腫瘍細胞を直接攻撃して除去する新しいメカニズムの免疫誘導型の癌治療ワクチンであり、安全性、有効性ともに既存薬を上回る新薬として期待されております。

### 医薬品開発の状況

(自社品)

区分	製品名/プロジェクト	適応症	地域	開発段階	主な提携先
医薬品	コラテジェン (HGF遺伝子治療薬)	重症下肢虚血（閉塞性動脈硬化症の重症）及びパーキンソン病	日本	第Ⅲ相準備中	第一三共株式会社 (販売権供与)
			欧米		未定
		虚血性心疾患	日本	臨床準備中	第一三共株式会社 (販売権供与)
			米国	第Ⅰ相	未定
	NF-κBデコイオリゴ	アトピー性皮膚炎	日本	第Ⅱ相	(塩野義製薬株式会社 と協議中)
			欧米	前臨床	
医療機器	薬剤塗布型 PTAバルーン カテーテル	血管再狭窄予防		臨床準備中	メディキット株式会社 ホソカワミクロン株式会社 (共同研究)
	機能性ペプチド	創傷		応用研究中	森下仁丹株式会社 (共同研究)

(提携開発品)

区分	製品名/プロジェクト	適応症	地域	開発段階	開発企業	当社の権利
医薬品	Allovetin-7 (遺伝子治療薬)	悪性黒色腫 (メラノーマ)	欧米	第Ⅲ相	バイカル社 (米)	欧米売上高に対するロイヤリティ受取権、アジアの開発販売権

(連結子会社ジェノメディア株式会社の開発品)

区分	開発コード	適応症	地域	開発段階	主な提携先
医薬品	GEN0101	前立腺癌	日本	前臨床	株式会社TSD Japan (製造開発販売権供与)

### 第3【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第3四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第3四半期連結会計期間において、第2四半期連結会計期間末に計画中であった重要な設備の新設、除却等について、重要な変更並びに重要な設備計画の完了はありません。

また、当第3四半期連結会計期間において、新たに確定した重要な設備の新設、除却等はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	370,464
計	370,464

##### ②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成22年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成22年11月1日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	117,991	117,991	東京証券取引所 マザーズ市場	(注) 2
計	117,991	117,991	—	—

(注) 1 提出日現在の発行数には、平成22年11月1日における新株予約権の行使(旧商法に基づき発行された新株引受権の行使を含む)により発行された株式数は、含まれておりません。

2 完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定の無い当社における標準となる株式であります。なお、当社は単元株制度を採用しておりませんので、単元株式数は記載しておりません。

#### (2)【新株予約権等の状況】

##### ① 旧商法第280条ノ19及び新事業創出促進法第11条の5に基づく特別決議による新株引受権

株主総会の特別決議日(平成13年8月3日)	
	第3四半期会計期間末現在 (平成22年9月30日)
新株予約権の数(個)	—
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数(株)	① 2,693 (注) 1 ② 40
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1株当たり50,000 (注) 2
新株予約権の行使期間	① 平成15年8月5日～平成23年6月30日 ② 平成14年6月1日～平成23年6月30日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 50,000 資本組入額 25,000
新株予約権の行使の条件	被付与者が取締役又は使用人の地位を失った場合は原則として権利行使不能。その他、細目については当社と付与対象者との間で締結する「新株引受権付与契約」に定める。
新株予約権の譲渡に関する事項	権利の譲渡及び担保権の設定の禁止
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	—

株主総会の特別決議日（平成14年 1 月31日）	
	第3 四半期会計期間末現在 （平成22年 9 月30日）
新株予約権の数（個）	—
新株予約権のうち自己新株予約権の数（個）	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数（株）	482（注） 1
新株予約権の行使時の払込金額（円）	1株当たり280,396（注） 2
新株予約権の行使期間	平成16年 2 月 1 日～平成23年12月31日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額（円）	発行価格 280,396 資本組入額 140,198
新株予約権の行使の条件	被付与者が取締役又は使用人の地位を失った場合は原則として権利行使不能。その他、細目については当社と付与対象者との間で締結する「新株引受権付与契約」に定める。
新株予約権の譲渡に関する事項	権利の譲渡及び担保権の設定の禁止
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	—

株主総会の特別決議日（平成14年 3 月29日）	
	第3 四半期会計期間末現在 （平成22年 9 月30日）
新株予約権の数（個）	—
新株予約権のうち自己新株予約権の数（個）	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数（株）	123（注） 1
新株予約権の行使時の払込金額（円）	1株当たり280,396（注） 2
新株予約権の行使期間	平成16年 3 月30日～平成23年12月31日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額（円）	発行価格 280,396 資本組入額 140,198
新株予約権の行使の条件	被付与者が使用人の地位を失った場合は原則として権利行使不能。その他、細目については当社と付与対象者との間で締結する「新株引受権付与契約」に定める。
新株予約権の譲渡に関する事項	権利の譲渡及び担保権の設定の禁止
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	—

② 平成13年改正旧商法第280条ノ20及び第280条ノ21の規定に基づく特別決議による新株予約権

株主総会の特別決議日（平成14年6月21日）	
	第3四半期会計期間末現在 （平成22年9月30日）
新株予約権の数（個）	211（注）3
新株予約権のうち自己新株予約権の数（個）	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数（株）	211（注）4
新株予約権の行使時の払込金額（円）	1株当たり280,396（注）5
新株予約権の行使期間	平成16年6月22日～平成23年12月31日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額（円）	発行価格 280,396 資本組入額 140,198
新株予約権の行使の条件	被付与者が取締役又は使用人の地位を失った場合は原則として権利行使不能。その他、細目については当社と付与対象者との間で締結する「新株予約権付与契約」に定める。
新株予約権の譲渡に関する事項	権利の譲渡及び担保権の設定の禁止
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	—

株主総会の特別決議日（平成15年3月27日）	
	第3四半期会計期間末現在 （平成22年9月30日）
新株予約権の数（個）	700（注）3
新株予約権のうち自己新株予約権の数（個）	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数（株）	700（注）6
新株予約権の行使時の払込金額（円）	1株当たり891,785（注）7, 8
新株予約権の行使期間	平成17年4月1日～平成24年12月31日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額（円）	発行価格 891,785 資本組入額 445,893
新株予約権の行使の条件	被付与者が取締役又は使用人の地位を失った場合は原則として権利行使不能。その他、細目については当社と付与対象者との間で締結する「新株予約権割当契約」に定める。
新株予約権の譲渡に関する事項	権利の譲渡及び担保権の設定の禁止
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	—

株主総会の特別決議日（平成16年3月30日）	
	第3四半期会計期間末現在 （平成22年9月30日）
新株予約権の数（個）	270（注）3
新株予約権のうち自己新株予約権の数（個）	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数（株）	270（注）6
新株予約権の行使時の払込金額（円）	1株当たり671,779（注）7, 8
新株予約権の行使期間	平成18年4月1日～平成25年12月31日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額（円）	発行価格 671,779 資本組入額 335,890
新株予約権の行使の条件	被付与者が取締役又は使用人の地位を失った場合は原則として権利行使不能。その他、細目については当社と付与対象者との間で締結する「新株予約権割当契約」に定める。
新株予約権の譲渡に関する事項	権利の譲渡及び担保権の設定の禁止
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	—

株主総会の特別決議日（平成17年3月30日）	
	第3四半期会計期間末現在 （平成22年9月30日）
新株予約権の数（個）	565（注）3
新株予約権のうち自己新株予約権の数（個）	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数（株）	565（注）6
新株予約権の行使時の払込金額（円）	1株当たり807,975（注）7, 8
新株予約権の行使期間	平成19年4月1日～平成26年12月31日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額（円）	発行価格 807,975 資本組入額 403,988
新株予約権の行使の条件	被付与者が取締役又は使用人の地位を失った場合は原則として権利行使不能。その他、細目については当社と付与対象者との間で締結する「新株予約権割当契約」に定める。
新株予約権の譲渡に関する事項	権利の譲渡及び担保権の設定の禁止
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	—

株主総会の特別決議日（平成18年3月30日）	
	第3四半期会計期間末現在 （平成22年9月30日）
新株予約権の数（個）	890（注）3
新株予約権のうち自己新株予約権の数（個）	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数（株）	① 790 ② 100（注）6
新株予約権の行使時の払込金額（円）	① 1株当たり762,396 ② 1株当たり583,000（注）7, 8
新株予約権の行使期間	① 平成20年4月1日～平成27年12月31日 ② 平成20年12月26日～平成27年12月31日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額（円）	① 発行価格 762,396 資本組入額 381,198 ② 発行価格 583,000 資本組入額 291,500
新株予約権の行使の条件	被付与者が取締役又は使用人の地位を失った場合は原則として権利行使不能。その他、細目については当社と付与対象者との間で締結する「新株予約権割当契約」に定める。
新株予約権の譲渡に関する事項	権利の譲渡及び担保権の設定の禁止
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	—

③ 会社法第236条、第238条及び第239条の規定に基づく特別決議による新株予約権

株主総会の特別決議日（平成19年3月30日）	
	第3四半期会計期間末現在 （平成22年9月30日）
新株予約権の数（個）	405（注）3
新株予約権のうち自己新株予約権の数（個）	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数（株）	① 115 ② 290（注）6
新株予約権の行使時の払込金額（円）	① 1株当たり636,195 ② 1株当たり651,000（注）7, 8
新株予約権の行使期間	① 平成21年5月9日～平成28年12月31日 ② 平成21年12月5日～平成28年12月31日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額（円）	① 発行価格 636,195 資本組入額 318,098 ② 発行価格 651,000 資本組入額 325,500
新株予約権の行使の条件	被付与者が取締役又は使用人の地位を失った場合は原則として権利行使不能。その他、細目については当社と付与対象者との間で締結する「新株予約権割当契約」に定める。
新株予約権の譲渡に関する事項	権利の譲渡及び担保権の設定の禁止
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	（注）9
新株予約権の取得条項に関する事項	（注）10

株主総会の特別決議日（平成20年3月28日）	
	第3四半期会計期間末現在 （平成22年9月30日）
新株予約権の数（個）	595（注）3
新株予約権のうち自己新株予約権の数（個）	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数（株）	① 350 ② 245（注）6
新株予約権の行使時の払込金額（円）	① 1株当たり428,551 ② 1株当たり158,810（注）7, 8
新株予約権の行使期間	① 平成22年5月13日～平成29年12月31日 ② 平成23年2月13日～平成29年12月31日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額（円）	① 発行価格 428,551 資本組入額 214,276 ② 発行価格 158,810 資本組入額 79,405
新株予約権の行使の条件	被付与者が取締役又は使用人の地位を失った場合は原則として権利行使不能。その他、細目については当社と付与対象者との間で締結する「新株予約権割当契約」に定める。
新株予約権の譲渡に関する事項	権利の譲渡及び担保権の設定の禁止
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	（注）9
新株予約権の取得条項に関する事項	（注）10

株主総会の特別決議日（平成21年3月27日）	
	第3四半期会計期間末現在 （平成22年9月30日）
新株予約権の数（個）	90（注）3
新株予約権のうち自己新株予約権の数（個）	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数（株）	90（注）6
新株予約権の行使時の払込金額（円）	1株当たり177,145（注）7, 8
新株予約権の行使期間	平成23年9月7日～平成30年12月31日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額（円）	発行価格 177,145 資本組入額 88,573
新株予約権の行使の条件	被付与者が取締役又は使用人の地位を失った場合は原則として権利行使不能。その他、細目については当社と付与対象者との間で締結する「新株予約権割当契約」に定める。
新株予約権の譲渡に関する事項	権利の譲渡及び担保権の設定の禁止
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	（注）9
新株予約権の取得条項に関する事項	（注）10

株主総会の特別決議日（平成22年3月30日）	
	第3四半期会計期間末現在 （平成22年9月30日）
新株予約権の数（個）	115（注）3
新株予約権のうち自己新株予約権の数（個）	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数（株）	115（注）6
新株予約権の行使時の払込金額（円）	1株当たり154,473（注）7, 8
新株予約権の行使期間	平成24年6月7日～平成31年12月31日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額（円）	発行価格 154,473 資本組入額 77,237
新株予約権の行使の条件	被付与者が取締役又は使用人の地位を失った場合は原則として権利行使不能。その他、細目については当社と付与対象者との間で締結する「新株予約権割当契約」に定める。
新株予約権の譲渡に関する事項	権利の譲渡及び担保権の設定の禁止
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	（注）9
新株予約権の取得条項に関する事項	（注）10

（注）1 株式数は、当社が株式分割等により、発行価額を下回る払込価額で新株を発行する時は次の計算式により調整されます。

$$\text{調整後新株数} = \frac{\text{調整前株数} \times \text{調整前発行価額}}{\text{調整後発行価額}}$$

2 発行価額は、当社が株式分割等によりこの発行価額を下回る価額による新株の発行が行われる場合は、次の算式（コンバージョン・プライス方式）により調整されます。

$$\text{調整後発行価額} = \frac{\text{既発行株式数} \times \text{調整前発行価額} + \text{新発行株式数} \times \text{1株当たり払込金額}}{\text{既発行株式数} + \text{新発行株式数}}$$

3 新株予約権1個につき目的となる株式の数は、1株であります。

4 株式数は、当社が株式分割又は株式併合を行う場合は、次の計算式により調整されます。

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割又は併合の比率}$$

5 払込価額は、当社が株式分割等によりこの払込価額を下回る価額による新株の発行が行われる場合は、次の算式（コンバージョン・プライス方式）により調整されます。

$$\text{調整後払込価額} = \frac{\text{既発行株式数} \times \text{調整前払込価額} + \text{新発行株式数} \times \text{1株当たり払込金額}}{\text{既発行株式数} + \text{新発行株式数}}$$

6 当社が株式分割又は株式併合を行う場合は、次の算式により目的たる株式の数を調整します。ただし、かかる調整は、新株予約権のうち、当該時点で権利行使されていない新株予約権の目的たる株式の数のみについて行い、調整の結果生じる1株未満の端数については、これを切り捨てます。

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割（併合）の比率}$$

- 7 払込価額は、新株予約権の発行後、時価を下回る価額で新株の発行を行う場合又は時価を下回る価額での自己株式の処分を行う場合（時価発行として行う公募増資の場合、新株予約権並びに平成14年4月1日改正前商法第280条ノ19及び新事業創出促進法第11条の5に基づく新株引受権の行使の場合を除く）（以下、両者あわせて「新規発行（処分）」という）は、次の算式により調整されます。なお、算式中「既発行株式数」には、新規発行（処分）の前において当社が所有する自己株式数は含まれません。

$$\text{調整後払込価額} = \text{調整前払込価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行（処分）株式数} \times 1 \text{株当たりの払込金額}}{\text{新規発行（処分）前の1株当たりの時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行（処分）株式数}}$$

- 8 新株予約権の発行日以降に当社が株式分割又は株式併合を行う場合、それぞれの効力発生の時をもって次の算式により払込価額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げます。

$$\text{調整後払込価額} = \text{調整前払込価額} \times \frac{1}{\text{分割（併合）の比率}}$$

- 9 当社が、合併（当社が合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割、新設分割、株式交換又は株式移転（以上を総称して以下、「組織再編行為」という。）をする場合において、組織再編行為の効力発生の時点において残存する新株予約権（以下、「残存新株予約権」という。）の新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号イからホまでに掲げる株式会社（以下、「再編対象会社」という。）の新株予約権を以下の条件に基づきそれぞれ交付することとします。この場合においては、残存新株予約権は消滅し、再編対象会社は新株予約権を新たに発行するものとします。但し、以下の条件に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約又は株式移転計画において定めた場合に限るものとします。

- (1) 交付する再編対象会社の新株予約権の数

残存新株予約権の新株予約権者が保有する新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとします。

- (2) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類

再編対象会社の普通株式とします。

- (3) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数

組織再編行為の条件等を勘案のうえ、上記6に準じて決定いたします。

- (4) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、上記7、8で定められる払込価額を組織再編行為の条件等を勘案のうえ調整して得られる再編後払込金額に(3)に従って決定される当該新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じて得られる金額とします。

- (5) 新株予約権を行使することができる期間

上記「新株予約権の行使期間」に定める新株予約権を行使することができる期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、上記「新株予約権の行使期間」に定める新株予約権を行使することができる期間の満了日までとします。

- (6) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項

- ① 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果生じる1円未満の端数は、これを切り上げるものとします。

- ② 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本準備金の額は、本号①記載の資本金等増加限度額から①に定める増加する資本金の額を減じた額とします。

- (7) 譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要するものとします。

- (8) 新株予約権の取得条項

(注) 10に準じて決定する。

10 下記に掲げる議案につき当社株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要の場合は、当社の取締役会決議がなされた場合）は、取締役会が別途定める日に、当社は無償で新株予約権を取得することができるものとします。

- (1) 当社が消滅会社となる合併契約承認の議案
- (2) 当社が分割会社となる分割契約又は分割計画承認の議案
- (3) 当社が完全子会社となる株式交換契約又は株式移転計画承認の議案
- (4) 当社が発行する全部の株式を内容として譲渡による当該株式の取得について当社の承認を要することについての定めを設ける定款の変更承認の議案
- (5) 新株予約権の目的である株式の内容として譲渡による当該株式の取得について当社の承認を要すること又は当該種類の株式について当社が株主総会の決議によってその全部を取得することについての定めを設ける定款の変更承認の議案

なお、新株予約権者が権利行使の条件を満たさずに新株予約権の全部又は一部を行使できなくなった場合には、取締役会の決議をもって当該新株予約権者の有する新株予約権を無償で取得することができるものとします。

また、新株予約権者がその有する新株予約権の全部又は一部について権利放棄を行った場合には、取締役会の決議をもって当該権利放棄された新株予約権についても、無償で取得することができるものとします。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成22年7月1日～ 平成22年9月30日	-	117,991	-	9,460,618	-	7,771,361

(6) 【大株主の状況】

当第3四半期会計期間において、大株主の異動は把握しておりません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成22年6月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成22年6月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	—	—	—
完全議決権株式（その他）	普通株式 117,991	117,991	—
単元未満株式	—	—	—
発行済株式総数	117,991	—	—
総株主の議決権	—	117,991	—

② 【自己株式等】

平成22年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合 (%)
—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成22年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
最高（円）	154,600	149,300	151,000	174,000	185,000	146,000	123,400	129,800	108,800
最低（円）	129,900	128,000	134,100	144,000	112,600	117,000	111,100	99,800	86,100

（注） 最高・最低株価は、東京証券取引所（マザーズ）における株価を記載しております。

3 【役員状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期報告書提出日までの役員の異動は、次のとおりであります。

役職の異動

新役名及び職名	旧役名及び職名	氏名	異動年月日
取締役 副社長執行役員 (第一臨床開発部、製品戦略部、事業開発部管掌)	取締役 副社長執行役員 (第一臨床開発部、製品戦略部、事業開発部管掌) 兼 創薬研究本部長	佐味 俊介	平成22年6月1日

## 第5【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前第3四半期連結会計期間（平成21年7月1日から平成21年9月30日まで）及び前第3四半期連結累計期間（平成21年1月1日から平成21年9月30日まで）は、改正前の四半期連結財務諸表規則に基づき、当第3四半期連結会計期間（平成22年7月1日から平成22年9月30日まで）及び当第3四半期連結累計期間（平成22年1月1日から平成22年9月30日まで）は、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第3四半期連結会計期間（平成21年7月1日から平成21年9月30日まで）及び前第3四半期連結累計期間（平成21年1月1日から平成21年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表並びに当第3四半期連結会計期間（平成22年7月1日から平成22年9月30日まで）及び当第3四半期連結累計期間（平成22年1月1日から平成22年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】  
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,576,972	3,549,098
売掛金	73,822	64,648
有価証券	937,066	1,498,278
商品	85,195	33,447
仕掛品	—	1,798
原材料及び貯蔵品	612,889	480,416
前渡金	273,629	247,132
前払費用	23,279	28,215
立替金	436	1,089
その他	30,957	31,300
流動資産合計	4,614,249	5,935,426
固定資産		
有形固定資産		
建物	58,748	58,599
減価償却累計額	△45,254	△43,276
建物（純額）	13,494	15,322
機械及び装置	52,847	53,091
減価償却累計額	△51,740	△51,607
機械及び装置（純額）	1,107	1,483
工具、器具及び備品	402,514	400,778
減価償却累計額	△367,723	△356,761
工具、器具及び備品（純額）	34,790	44,016
有形固定資産合計	49,392	60,823
無形固定資産		
特許権	160,467	195,654
その他	8,849	16,561
無形固定資産合計	169,316	212,215
投資その他の資産		
投資有価証券	662,698	829,443
敷金及び保証金	54,663	54,784
その他	59,848	69,453
投資その他の資産合計	777,211	953,681
固定資産合計	995,920	1,226,720
資産合計	5,610,170	7,162,146

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	72,056	49,134
未払金	50,894	42,199
未払費用	7,507	11,161
未払法人税等	14,149	23,821
前受金	512,854	515,101
預り金	9,260	7,799
流動負債合計	666,722	649,218
負債合計	666,722	649,218
純資産の部		
株主資本		
資本金	9,460,618	9,460,618
資本剰余金	7,771,361	7,771,361
利益剰余金	△12,500,592	△11,158,086
株主資本合計	4,731,387	6,073,893
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	118,014	370,141
為替換算調整勘定	△42,134	△31,780
評価・換算差額等合計	75,880	338,361
新株予約権	136,180	100,673
純資産合計	4,943,447	6,512,927
負債純資産合計	5,610,170	7,162,146

(2) 【四半期連結損益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日)
事業収益		
商品売上高	※1 97,728	※1 126,192
研究開発事業収益	391,923	61,199
事業収益合計	489,651	187,391
事業費用		
売上原価	※1 46,862	※1 57,902
研究開発費	※2 1,999,852	※2 1,010,514
販売費及び一般管理費	※3 526,660	※3 586,033
事業費用合計	2,573,376	1,654,450
営業損失(△)	△2,083,724	△1,467,058
営業外収益		
受取利息	11,146	7,073
為替差益	—	22,163
補助金収入	147,367	120,843
業務受託料	※4 3,015	※4 3,015
雑収入	1,357	3,080
営業外収益合計	162,886	156,176
営業外費用		
株式交付費	201	—
投資事業組合運用損	※4 321,288	※4 8,258
為替差損	12,228	—
雑損失	16	—
貸倒引当金繰入額	227	—
営業外費用合計	333,962	8,258
経常損失(△)	△2,254,801	△1,319,139
特別損失		
固定資産除却損	※5 25,378	※5 16,182
投資有価証券評価損	100,029	—
特別損失合計	125,408	16,182
税金等調整前四半期純損失(△)	△2,380,209	△1,335,322
法人税、住民税及び事業税	10,236	7,183
法人税等合計	10,236	7,183
四半期純損失(△)	△2,390,445	△1,342,506

## 【第3四半期連結会計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結会計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)
事業収益		
商品売上高	※1 37,478	※1 53,608
研究開発事業収益	78,572	18,279
事業収益合計	116,050	71,887
事業費用		
売上原価	※1 17,653	※1 24,372
研究開発費	※2 576,684	※2 322,693
販売費及び一般管理費	※3 173,323	※3 188,431
事業費用合計	767,660	535,496
営業損失(△)	△651,610	△463,609
営業外収益		
受取利息	3,882	1,671
為替差益	—	4,080
雑収入	313	450
営業外収益合計	4,195	6,202
営業外費用		
為替差損	8,560	—
貸倒引当金繰入額	227	—
営業外費用合計	8,788	—
経常損失(△)	△656,202	△457,407
特別損失		
固定資産除却損	※4 3,482	※4 7,052
特別損失合計	3,482	7,052
税金等調整前四半期純損失(△)	△659,684	△464,460
法人税、住民税及び事業税	3,272	2,310
法人税等合計	3,272	2,310
四半期純損失(△)	△662,957	△466,770

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成21年1月1日 至 平成21年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年1月1日 至 平成22年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失 (△)	△2,380,209	△1,335,322
減価償却費	93,890	75,213
受取利息	△11,146	△7,073
為替差損益 (△は益)	8,613	3,564
投資事業組合運用損益 (△は益)	323,272	10,242
固定資産除却損	24,531	16,182
投資有価証券評価損益 (△は益)	100,029	—
株式交付費	201	—
株式報酬費用	28,567	35,507
売上債権の増減額 (△は増加)	5,339	△9,173
たな卸資産の増減額 (△は増加)	51,612	△182,422
仕入債務の増減額 (△は減少)	9,015	22,922
前渡金の増減額 (△は増加)	△7,664	△26,497
未払金の増減額 (△は減少)	△13,388	7,525
前受金の増減額 (△は減少)	△83,602	△2,246
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	22,765	4,666
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	△19,168	△14,506
その他の固定資産の増減額 (△は増加)	921	—
小計	△1,846,418	△1,401,415
利息の受取額	11,364	11,201
法人税等の支払額	△13,987	△4,611
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,849,040	△1,394,825
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△500,000	—
定期預金の払戻による収入	500,000	500,000
有価証券の取得による支出	△1,000,030	△740,115
有価証券の償還による収入	1,000,000	1,800,000
有形固定資産の取得による支出	△8,358	△7,351
有形固定資産の売却による収入	—	19
無形固定資産の取得による支出	△23,435	△18,929
投資有価証券の取得による支出	—	△97,000
投資有価証券の売却による収入	15,178	—
長期前払費用の取得による支出	△2,719	—
敷金及び保証金の差入による支出	—	△401
敷金及び保証金の回収による収入	165	396
その他の収入	2,719	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△16,480	1,436,616

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成21年1月1日 至 平成21年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年1月1日 至 平成22年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
その他の支出	△201	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△201	—
現金及び現金同等物に係る換算差額	△8,578	△13,967
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△1,874,300	27,824
現金及び現金同等物の期首残高	5,799,571	3,049,098
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 3,925,270	※ 3,076,922

【継続企業の前提に関する事項】

当第3四半期連結会計期間（自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日）  
該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

当第3四半期連結累計期間（自 平成22年1月1日 至 平成22年9月30日）  
該当事項はありません。

【簡便な会計処理】

当第3四半期連結累計期間  
（自 平成22年1月1日 至 平成22年9月30日）

棚卸資産の評価方法

当第3四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、前連結会計年度末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。

【四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理】

当第3四半期連結累計期間（自 平成22年1月1日 至 平成22年9月30日）  
該当事項はありません。

【注記事項】

（四半期連結貸借対照表関係）

当第3四半期連結会計期間末 （平成22年9月30日）	前連結会計年度末 （平成21年12月31日）
1 運転資金の効率的な調達を行うため主要取引金融機関と当座貸越契約を締結しております。 当座貸越契約の総額 1,900,000千円 当第3四半期連結会計期間末残高 一千円	1 運転資金の効率的な調達を行うため主要取引金融機関と当座貸越契約を締結しております。 当座貸越契約の総額 1,900,000千円 当連結会計年度末残高 一千円

## (四半期連結損益計算書関係)

## 第3四半期連結累計期間

前第3四半期連結累計期間 (自 平成21年1月1日 至 平成21年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年1月1日 至 平成22年9月30日)
※1 商品売上高から売上原価を差し引いた売上総利益は、50,865千円であります。	※1 商品売上高から売上原価を差し引いた売上総利益は、68,290千円であります。
※2 研究開発費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。	※2 研究開発費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。
給与手当 386,446千円	給与手当 317,724千円
外注費 978,880	外注費 172,066
減価償却費 74,398	減価償却費 58,470
※3 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。	※3 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。
役員報酬 74,340千円	役員報酬 91,906千円
給与手当 164,898	給与手当 164,612
支払手数料 86,737	支払手数料 104,372
減価償却費 9,480	減価償却費 7,138
※4 投資事業組合に係る業務受託料のうち、実質的に当社負担相当額となる1,984千円については、投資事業組合運用損失と相殺して表示しております。	※4 投資事業組合に係る業務受託料のうち、実質的に当社負担相当額となる1,984千円については、投資事業組合運用損失と相殺して表示しております。
※5 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。	※5 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。
機械装置 689千円	工具、器具及び備品 92千円
工具、器具及び備品 17	特許権 16,090
特許権 24,514	計 16,182千円
原状回復費用 157	
計 25,378千円	

## 第3四半期連結会計期間

前第3四半期連結会計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)
※1 商品売上高から売上原価を差し引いた売上総利益は、19,824千円であります。	※1 商品売上高から売上原価を差し引いた売上総利益は、29,235千円であります。
※2 研究開発費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。	※2 研究開発費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。
給与手当 117,960千円	給与手当 102,490千円
外注費 288,828	外注費 54,066
減価償却費 24,299	減価償却費 18,560
※3 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。	※3 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。
役員報酬 28,282千円	役員報酬 30,697千円
給与手当 53,066	給与手当 55,192
支払手数料 25,536	支払手数料 23,964
減価償却費 3,227	減価償却費 3,069
※4 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。	※4 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。
工具、器具及び備品 17千円	工具、器具及び備品 53千円
特許権 3,465	特許権 6,999
計 3,482千円	計 7,052千円

## (四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第3四半期連結累計期間 (自 平成21年1月1日 至 平成21年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年1月1日 至 平成22年9月30日)
※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係	※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係
現金及び預金 3,925,275千円	現金及び預金 2,576,972千円
有価証券 1,597,746	有価証券 937,066
計 5,523,022千円	計 3,514,039千円
預入期間が3か月超の定期預金 △500,000	預入期間が3か月超の定期預金 —
MMF及びCP以外の有価証券 △1,097,751	MMF及びCP以外の有価証券 △437,116
現金及び現金同等物 3,925,270千円	現金及び現金同等物 3,076,922千円

## (株主資本等関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成22年9月30日)及び当第3四半期連結累計期間(自 平成22年1月1日 至 平成22年9月30日)

## 1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当第3四半期連結会計期間末
普通株式(株)	117,991

2 自己株式に関する事項  
該当事項はありません。

## 3 新株予約権等に関する事項

会社名	目的となる株式の種類	目的となる株式の数(株)	当第3四半期 連結会計期間末残高 (千円)
提出会社	—	—	136,180

(注) 当該新株予約権は、権利行使期間の初日が到来しておりません。

## 4 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

該当事項はありません。

## (2) 基準日が当連結会計年度の開始の日から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

## 5 株主資本の著しい変動に関する事項

当第3四半期連結累計期間(自 平成22年1月1日 至 平成22年9月30日)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
平成21年12月31日残高(千円)	9,460,618	7,771,361	△11,158,086	6,073,893
四半期連結累計期間中の変動額				
四半期純損失			△1,342,506	△1,342,506
四半期連結累計期間中の変動額合計(千円)			△1,342,506	△1,342,506
平成22年9月30日残高(千円)	9,460,618	7,771,361	△12,500,592	4,731,387

(リース取引関係)

該当事項はありません。

(有価証券関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成22年9月30日)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

当第3四半期連結会計期間(自平成22年7月1日至平成22年9月30日)

費用計上額及び科目名

研究開発費の株式報酬費用 8,729千円

販売費及び一般管理費の株式報酬費用 3,291千円

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

前第3四半期連結会計期間(自平成21年7月1日至平成21年9月30日)及び当第3四半期連結会計期間(自平成22年7月1日至平成22年9月30日)

前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間において、医薬事業の事業収益、営業利益の金額は全セグメントの事業収益の合計額、営業利益の合計額の90%を超えているため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

前第3四半期連結累計期間(自平成21年1月1日至平成21年9月30日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成22年1月1日至平成22年9月30日)

前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間において、医薬事業の事業収益、営業利益の金額は全セグメントの事業収益の合計額、営業利益の合計額の90%を超えているため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

【所在地別セグメント情報】

前第3四半期連結会計期間(自平成21年7月1日至平成21年9月30日)

	日本 (千円)	北米 (千円)	欧州 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
事業収益						
(1) 外部顧客に対する事業収益	116,050	—	—	116,050	—	116,050
(2) セグメント間の内部事業収益又は振替高	—	54,975	2,156	57,131	(57,131)	—
計	116,050	54,975	2,156	173,182	(57,131)	116,050
営業利益又は営業損失(△)	△660,262	2,632	330	△657,298	5,688	△651,610

当第3四半期連結会計期間(自平成22年7月1日至平成22年9月30日)

	日本 (千円)	北米 (千円)	欧州 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
事業収益						
(1) 外部顧客に対する事業収益	71,887	—	—	71,887	—	71,887
(2) セグメント間の内部事業収益又は振替高	—	36,672	1,496	38,168	(38,168)	—
計	71,887	36,672	1,496	110,056	(38,168)	71,887
営業利益又は営業損失(△)	△466,499	2,819	70	△463,609	—	△463,609

(注) 1 国又は地域は、地理的近接度により区分しております。

2 本邦以外の区分に属する国又は地域の内訳は次のとおりであります。

- (1) 北米……米国
- (2) 欧州……英国

前第3四半期連結累計期間（自 平成21年1月1日 至 平成21年9月30日）

	日本 (千円)	北米 (千円)	欧州 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
事業収益						
(1) 外部顧客に対する事業収益	489,651	—	—	489,651	—	489,651
(2) セグメント間の内部事業収益又は振替高	—	185,781	5,614	191,395	(191,395)	—
計	489,651	185,781	5,614	681,047	(191,395)	489,651
営業利益又は営業損失（△）	△2,095,658	8,923	494	△2,086,239	2,514	△2,083,724

当第3四半期連結累計期間（自 平成22年1月1日 至 平成22年9月30日）

	日本 (千円)	北米 (千円)	欧州 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
事業収益						
(1) 外部顧客に対する事業収益	187,391	—	—	187,391	—	187,391
(2) セグメント間の内部事業収益又は振替高	—	164,467	4,634	169,101	(169,101)	—
計	187,391	164,467	4,634	356,493	(169,101)	187,391
営業利益又は営業損失（△）	△1,476,222	8,914	250	△1,467,058	—	△1,467,058

(注) 1 国又は地域は、地理的近接度により区分しております。

2 本邦以外の区分に属する国又は地域の内訳は次のとおりであります。

(1) 北米……米国

(2) 欧州……英国

【海外売上高】

前第3四半期連結会計期間（自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日）及び当第3四半期連結会計期間（自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日）

海外売上高がないため、該当事項はありません。

前第3四半期連結累計期間（自 平成21年1月1日 至 平成21年9月30日）及び当第3四半期連結累計期間（自 平成22年1月1日 至 平成22年9月30日）

海外売上高がないため、該当事項はありません。

## (1 株当たり情報)

## 1 1株当たり純資産額

当第3四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末 (平成21年12月31日)
40,742円66銭	54,345円29銭

(注) 1株当たり純資産額の算定上の基礎

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末 (平成21年12月31日)
純資産の部の合計額(千円)	4,943,447	6,512,927
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	136,180	100,673
(うち新株予約権)	(136,180)	(100,673)
普通株式にかかる期末の純資産額(千円)	4,807,267	6,412,254
期末の普通株式の数(株)	117,991	117,991

## 2 1株当たり四半期純損失

## 第3四半期連結累計期間

前第3四半期連結累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日)
1株当たり四半期純損失 20,300円85銭 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、ストック・オプション制度導入に伴う新株引受権及び新株予約権残高がありますが、1株当たり四半期純損失が計上されているため記載しておりません。	1株当たり四半期純損失 11,378円4銭 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、ストック・オプション制度導入に伴う新株引受権及び新株予約権残高がありますが、1株当たり四半期純損失が計上されているため記載しておりません。

(注) 1株当たり四半期純損失の算定上の基礎

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日)
四半期純損失(千円)	2,390,445	1,342,506
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純損失(千円)	2,390,445	1,342,506
普通株式の期中平均株式数(株)	117,751	117,991
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—	旧商法第280条ノ19及び新事業創出促進法第11条の5に基づく特別決議による新株引受権(新株引受権の目的となる株式の数3,338株)及び新株予約権(新株予約権の数3,841個)

第3四半期連結会計期間

前第3四半期連結会計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)
1株当たり四半期純損失 5,630円17銭 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、ストック・オプション制度導入に伴う新株引受権及び新株予約権残高がありますが、1株当たり四半期純損失が計上されているため記載しておりません。	1株当たり四半期純損失 3,955円98銭 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、ストック・オプション制度導入に伴う新株引受権及び新株予約権残高がありますが、1株当たり四半期純損失が計上されているため記載しておりません。

(注) 1株当たり四半期純損失の算定上の基礎

	前第3四半期連結会計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)
四半期純損失(千円)	662,957	466,770
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純損失(千円)	662,957	466,770
普通株式の期中平均株式数(株)	117,751	117,991
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—	—

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年11月5日

アンジェスMG株式会社  
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 片岡 久依 (印)

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 勢志 元 (印)

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているアンジェスMG株式会社の平成21年1月1日から平成21年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成21年7月1日から平成21年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成21年1月1日から平成21年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、アンジェスMG株式会社及び連結子会社の平成21年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年10月27日

アンジェスMG株式会社  
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 片岡 久依 (印)

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 勢志 元 (印)

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているアンジェスMG株式会社の平成22年1月1日から平成22年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成22年7月1日から平成22年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成22年1月1日から平成22年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、アンジェスMG株式会社及び連結子会社の平成22年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。